

むつ小川原港、洋上風力拠点としての可能性

2020年4月27日



目次

§ 1	港湾法における港湾の区分	03	§ 6	むつ小川原港位置図	08
§ 2	青森県の港湾及び空港	04	§ 7	むつ小川原港近郊の洋上風力発電計画	09
§ 3	青森港	05	§ 8	港湾区域の洋上風力発電計画	10
§ 4	八戸港	06	§ 9	洋上風力拠点港としての可能性	11
§ 5	むつ小川原港	07	§ 10	まとめと考察	13

§ 1 港湾法における港湾の区分

区分	概要	県内対象港湾（国内）
国際戦略港湾	長距離の国際海上コンテナ運送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、かつ、当該国際海上貨物輸送網と国内海上貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾であって、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾として政令で定めるもの	無し （東京港・横浜港・川崎港・ 大阪港・神戸港）
国際拠点港湾	国際戦略港湾以外の港湾であって、国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定めるもの	無し （室蘭港・苫小牧港ほか国内は 18港）
重要港湾	国際戦略港湾及び国際拠点港湾以外の港湾であって、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾として政令で定めるもの	青森港・八戸港 むつ小川原港 （国内は102港）
地方港湾	国際戦略港湾、国際拠点港湾及び重要港湾以外の港湾	野辺地港 ほか10港 （国内は807港）
56条港湾	港湾区域の定めのない港湾	関根浜港 （国内は61港）

出典：「港湾数一覧、国際戦略港湾、国際拠点港湾及び重要港湾位置」国土交通省ホームページ、
<https://www.mlit.go.jp/common/000010177.pdf>（2020年4月27日参照）を基に新むつ小川原(株)作成

§ 2 青森県の港湾及び空港

青森県内の港湾及び空港位置図



出典：「国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部」ホームページ、
<http://www.pa.thr.mlit.go.jp/kakyoin/guide/guide001.html>（2020年4月27日参照）

沿革

➤寛永2年（1625年）

・弘前藩第2代藩主津軽信枚が幕府により津軽から江戸への廻船（太平洋側への参画）を許され、これを契機に、藩主導の下で、浜町・本町・米町に始まる湊町青森の町づくりが行われる

➤明治39年（1906年）

・4月1日、特別輸出港となり貿易港として開発指定

➤明治41年（1908年）

・青函連絡船の就航

➤昭和26年（1951年）

・重要港湾の指定を受け、本港地区において中央埠頭、浜町埠頭、堤埠頭と順次整備が進められた
その後取扱貨物の増加に伴い沖館地区で係留施設の整備が開始された

➤昭和49年（1974年）

・-13m岸壁、フェリー埠頭等が整備されて平成20年4月には耐震強化岸壁（-7.5m）が供用開始

➤平成15年（2003年）

・新中央埠頭に耐震強化岸壁である旅客船バース（-10m）が、平成16年4月にはふ頭先端部の親水防波堤が供用開始される

・クルーズ船は東北一の寄港数であり、県都の海の玄関口として期待が高まる

➤平成22年（2010年）

・東北新幹線が全線開業し、「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」、「観光物産館アスパム」、ねぶたを体感できる「ねぶたの家ワ・ラッセ」、シードル工房等のある「A-FACTORY」などの施設集積により、ウォーターフロント周辺一帯の魅力が増している

➤平成31年（2019年）

・新中央埠頭に「青森港国際クルーズターミナル」完成



出典：「青森県庁 県土整備部 港湾空港課 青森港」青森県庁ホームページより抜粋
http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan_aomorikou.html（2020年4月27日参照）

沿革

- 寛永4年（1627年）
 - ・八戸藩が南部藩より分離し創立される（1664年）以後明治年間まで250年間鮫浦港と呼ばれる
- 昭和5年（1930年）
 - ・八戸港に改称
- 昭和14年（1939年）
 - ・八戸港開港
- 昭和26年（1951年）
 - ・重要港湾の指定を受ける
- 昭和39年（1964年）
 - ・「新産業都市」指定を契機に工業港としての港湾整備が開始され、東北有数の港湾へと発展
- 昭和57年（1982年）
 - ・八戸港フェリー埠頭供用開始
- 平成6年（1994年）
 - ・国際定期コンテナ航路開設
- 平成8年（1996年）
 - ・輸入促進地域（FAZ）に指定
- 平成15年（2003年）
 - ・リサイクルポートに指定
- 平成27年（2015年）
 - ・LNG輸入基地操業開始



出典：「青森県庁 県土整備部 港湾空港課 八戸港」青森県庁ホームページより抜粋
http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan_hachinohekou.html（2020年4月27日参照）

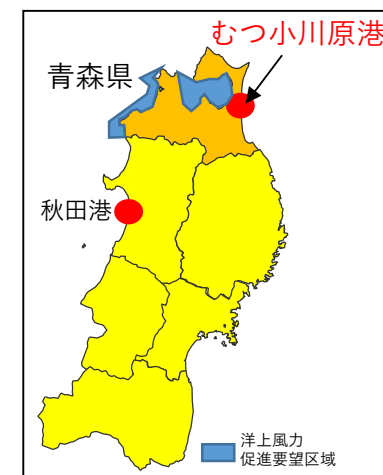
§ 5 むつ小川原港

沿革

- 昭和44年（1969年）
 - ・新全国総合開発計画閣議決定
- 昭和52年（1977年）
 - ・重要港湾の指定を受ける
- 昭和58年（1983年）
 - ・30万トン1点けい留ブイバース 1基完成
- 昭和58年（1983年）
 - ・新納屋地区岸壁2,000トン2バース供用開始
- 昭和61年（1986年）
 - ・新納屋地区岸壁2,000トン1バース供用開始
- 平成2年（1990年）
 - ・鷹架地区暫定5,000トン岸壁2バース供用開始
- 平成14年（2002年）
 - ・鷹架地区暫定2,000トン岸壁1バース供用開始
- 平成17年（2005年）
 - ・尾駁地区離岸堤完成



出典：「青森県庁 県土整備部 港湾空港課 むつ小川原港」青森県庁ホームページより抜粋
http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kowan_mutsuogawarakou.html（2020年4月27日参照）

 主要港湾

DISCUSSION PURPOSE ONLY

§ 7 むつ小川原港近郊の洋上風力発電計画

六ヶ所村を挟む太平洋と陸奥湾で計画中

【①(仮称)陸奥湾洋上風力発電事業】

事業者：日本風力開発(株)、
青森風力開発(株)

操業開始予定：2024年
定格出力：8,000kW または
4,000kW

基数：100基～200基

総出力：800,000kW

事業費：(2,000億円)

(4,000kW級1基10億円とした)

出典：「(仮称)陸奥湾洋上風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する環境大臣意見の提出について」環境省、2018年2月25日
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/108320.pdf> (2019年2月28日参照)

【②(仮称)横浜町風力発電事業】

事業者：青森風力開発(株)、
前田建設工業(株)

操業開始予定：未定

定格出力：8,000kW

基数：10基

総出力：80,000kW

事業費：(150億円)

(8,000kW級1基15億円とした)

出典：「(仮称)横浜町洋上風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する環境大臣意見の提出について」環境省、2019年5月11日
<https://www.env.go.jp/press/105452.html> (2019年5月6日参照)



【③むつ小川原港洋上風力発電所(仮称)】

事業者：むつ小川原港洋上風力
開発(株)

操業開始予定：2022年

定格出力：9,500kW

基数：9基

総出力：80,000kW(最大)

事業費：300億円

出典：「(仮称)むつ小川原港洋上風力発電事業計画段階環境配慮書に対する環境大臣意見の提出について」環境省、2014年1月9日、一部当社調べ

洋上風力発電計画図

出典：「国土地理院地図」国土地理院Webサイト

<https://maps.gsi.go.jp/#10/41.073657/141.178436/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1> (2019年2月28日参照)、
岩崎満、安達一将「洋上風力発電 膨らむ夢」東奥日報、2019年1月1日付 をもとに当社加工

§ 8 むつ小川原港 港湾区域の洋上風力発電計画

むつ小川原港 港湾区域

青森県内で唯一、港湾計画において港湾区域に
洋上風力区域が設定された漁業権の無い区域である

洋上風力設置場所までの
直線距離が約4 km～6 kmと近い

岸壁周辺には組立基地に適した
広大で堅固な背後地が広がっている

落雷や台風も少なく自然災害リスクが低く
1年をとって安定した風力が得られる

再生可能エネルギー源を活用する区域
(洋上風力発電区域)

10月～3月にかけては日本海沖
の港に比べ波高が低く港内静穏度
が高い

むつ小川原港

再生可能エネルギー源を活用する区域
(洋上風力発電区域)

§ 9 むつ小川原港 洋上風力拠点港としての可能性 (鷹架A・B岸壁)



§ 9 むつ小川原港 洋上風力拠点港としての可能性 (鷹架C岸壁及び新納屋)



【まとめ】

- ① **県内港湾で唯一**、港湾計画において 港湾区域内の洋上風力促進区域に位置付けられており、同区域と隣接した港である。
- ② 岸壁背後には **広大で堅固な背後地**が広がり、今後、太平洋沖一般海域での洋上風力発電の展開が促進された場合にも対応が可能である。また **陸上風車の陸揚げ実績**もある港である。
- ③ 日本海沖の他港と比べ、冬場の有義波高が低く 静穏度が高いため、台船やSEP船等からの陸揚げや荷積みに適している。

【考察】

県内港湾の拠点港整備は、なおこれからだが、**今後の太平洋沖一般海域への展開などを見据え**、むつ小川原港はその拠点港の一つとして、十分な利用の可能性はあるのではないかと考える。

当資料は、新むつ小川原株式会社により作成されたものです。

- ・当資料は、情報提供を目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できると思われる情報に基づき作成しておりますが、当社がその内容の正確性、実現性を保証するものではなく、情報に誤り等があった場合に当社は何らの責任を負うものではありません。
- ・当資料の著作権は新むつ小川原株式会社又は他の権利者に帰属します。著作権法で認められる場合を除き、許可なく利用することはできません。当資料を引用する場合は当社までご連絡ください。
- ・出典が記載されているデータ・図表等については出典元へ直接お問い合わせください。
- ・当資料に記載されている内容は、当社の都合により、予告なしに変更される場合があります。
- ・当資料の利用に関し生じたトラブルや損害等について、当社は何ら責任を負わないものとします。

当資料の利用に関するお問い合わせ先

新むつ小川原株式会社 E-mail : info@shinmutsu.co.jp

DISCUSSION PURPOSE ONLY